

二之丸御殿遗址发掘

松本城从里到外共有三条环绕城郭的护城河，分别是内堀、外堀和总堀，它们将城郭划分成了几个呈同心圆状分布的区域，这些区域便是城郭内的分级防御空间，日文称“丸”。城郭核心区域被称为“本丸”，通常是天守及城主居所的所在地。本丸御殿位于本丸区域，在 1727 年遭焚毁之前一直是松本城的政治中枢。火灾后，相关职能机构便转移到了二之丸御殿。

二之丸御殿位于本丸以东、太鼓门以北、内堀和外堀之间，是松本城内三处居住与办公的综合区域之一。遗址的发掘工作在 20 世纪 70 至 80 年代进行。这里出土的石垣地基和大量文物令人们对 16 世纪至 19 世纪日本统治阶层的生活情况有了进一步的了解。

明治维新(1868)后，二之丸御殿于 1871 年被改造为县办公厅。5 年后，相关建筑失火焚毁。之后在御殿旧址上建起了一座裁判所。1978 年，裁判所搬迁至三之丸。二之丸在考古发掘与修复工作完成后被改造成了一座公园。二之丸御殿遗址已经被指定为国家史迹。

中文	日本語
焦石 二之丸御殿地基的一部分。 从裂纹和发红变色的部分可以看出 1876 年烧毁御殿的那场火灾的火势之凶猛。	焼石 二の丸御殿の基礎の一部。 ひび割れや赤い変色が、1876 年の大火の激しさを物語っている。
上台所“围炉里” 御殿厨房的一座大地炉。 包括砂岩外壁在内，地炉尺寸为 1.8×2.8 米。这里出土了几罐精制盐。	上台所囲炉裏 御殿の台所にあった大きな囲炉裏。 砂岩の囲いを含めて 1.8 メートル×2.8 メートルの大きさがある。精製塩の入った壺が出土している。
侧沟 环绕御殿建筑的小沟渠。 宽 30 厘米、深 20 厘米。侧沟在东北角分流，将水引入不远处的护城河。	側溝 御殿を囲む浅い排水溝。 幅 30 センチ、深さ 20 センチ。北東の角で分岐し、近くの堀に水を流していた。
础石群 这座建筑的承重柱竖立在平坦的河石上。从石头的位置可推测房间的布局。	礎石群 平らな川石が建物の柱を支えている。石の位置から部屋の間取りを推測することができる。

蓄水池和木头水管 这个蓄水池直径 1.37 米，深 1.5 米，内侧敷黄泥。使用木头水管放水。	貯水槽・導水用の木管 直径 137cm、深さ 1.5m の貯水槽で、黄土で敷き詰められている。木製のパイプで水を流していた。
雪隠 这个长 5 米、宽 2.5 米的小空间里有 3 个竖穴式茅坑，其中两个紧靠并排。通常，厕所都会设在建筑外围的边界处。	雪隠 幅 2.5m×長さ 5m の狭い範囲に 3 つの竖穴式便所が密集しており、そのうち 2 つは実質的に隣り合わせに並んでいた。便所は一般に建物の外側の縁の辺りに設置されていた。
大灶 这两个大灶分别宽 0.6 米、0.8 米，上面放有煮饭的锅。这里还出土了一些环形锅架的金属残片。	大竈 2 つの幅 0.6 メートルと 0.8 メートルの大型の竈で、炊飯用の鍋を載せていた。鍋を固定するリングの金属片が出土している。
信州松本御城内地下清水井分流示意图 这张图展示了水井中的水是如何被引入二之丸御殿厨房和附近武士宅邸的。	信州松本御城内地蔵清水井戸分水之図 水源井戸から二の丸御殿の台所や近隣の武家屋敷に水を送る様子を示したもの。